

第 5 回

運営諮問会議報告書

平成22年4月

新居浜工業高等専門学校

目 次

1	運営諮問会議委員及び学校側出席者	1
2	運営諮問会議日程表	4
3	学校説明資料	5
	①概要説明	5
	②入学志願者の確保	8
	③キャリア教育及び教科外学生活動	1 2
	④学寮運営について	1 6
	⑤学生相談室から	1 9
	⑥前回運営諮問会議のフォローアップ報告	2 2
	・地域と連携した教育活動の取組	2 3
4	意見交換	2 9
5	委員の追加意見・要望等	4 1
6	その他	4 3
	配付資料一覧	4 3
	教育改善等実施の組織体制図	4 4
	新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程	4 5



新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員

氏 名	現 職	備考
青野 正	新居浜商工会議所会頭	代理出席
北山 慎一郎	住友化学株式会社 理事 基礎化学品研究所長	代理出席
堺 雅子	愛媛県小中学校長会会長 松山市立桑原中学校長	
○佐々木 龍	新居浜市長	
渋谷 雅之	国立大学法人徳島大学名誉教授	
平田 利實	ユースエンジニアリング株式会社 相談役	
◎柳澤 康信	国立大学法人愛媛大学長	

◎は会長、○は副会長

(五十音順・敬称略)

代理出席者

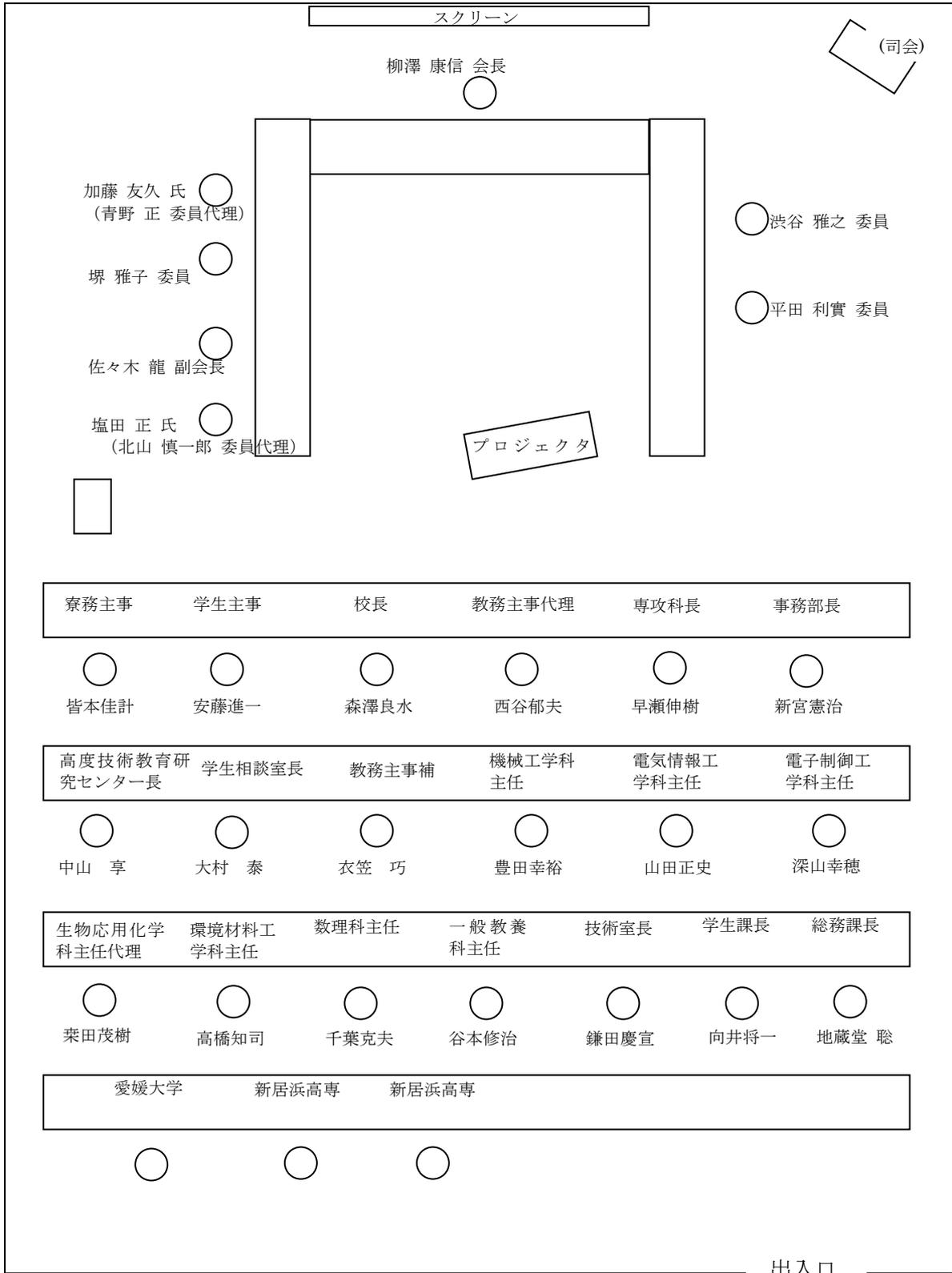
加藤 友久	新居浜商工会議所専務理事 (青野委員代理)
塩田 正	住友化学知的財産センター株式会社 主席部員 (北山委員代理)

(五十音順・敬称略)

学校側出席者

職 名	氏 名	備 考
校 長	森 澤 良 水	
教務主事代理	西 谷 郁 夫	
学 生 主 事	安 藤 進 一	
寮 務 主 事	皆 本 佳 計	
専 攻 科 長 (国際交流推進室長)	早 瀬 伸 樹	
高度技術教育研究センター長	中 山 享	
学生相談室長	大 村 泰	
機械工学科主任	豊 田 幸 裕	
電気情報工学科主任	山 田 正 史	
電子制御工学科主任	深 山 幸 穂	
生物応用化学科主任	中 川 克 彦	
環境材料工学科主任	高 橋 知 司	
数 理 科 主 任	千 葉 克 夫	
一般教養科主任	谷 本 修 治	
技 術 室 長	鎌 田 慶 宣	
教 務 主 事 補	衣 笠 巧	
事 務 部 長	新 宮 憲 治	
総 務 課 長	地 藏 堂 聡	
学 生 課 長	向 井 将 一	
総務課課長補佐	村 上 剛	
総務企画係長	筒 井 隆	

座席表



会場表示

運営諮問会議日程表

1. 日 時 平成22年3月8日(月) 14:30~17:00

2. 場 所 第一会議室

3. 日 程

時 刻	次 第
14:30	運営諮問会議 ○会長選出 ○会長挨拶 ○副会長選出 ○議事
14:50	1. 学校説明 [資料1] ①概要説明(校長) ②入学志願者の確保(教務主事代理) ③キャリア教育及び教科外学生活動(学生主事) ④学寮運営について(寮務主事) ○休憩(10分) 2. 学生相談室から(学生相談室長) [資料2] 3. 前回運営諮問会議のフォローアップ報告 [資料3] ・地域と連携した教育活動の取組(高技センター長) 4. 意見交換
17:00	運営諮問会議終了

1. 学校説明資料

① 概要説明

概要説明
平成22年3月8日(月)
新居浜工業高等専門学校

沿革

- 昭和37年4月 国立高等専門学校第1期校として、新居浜工業高等専門学校設置（機械工学科・電気工学科・工業化学科）
- 昭和41年4月 金属工学科を増設（4学科）
- 昭和62年4月 金属工学科を材料工学科に改組
- 昭和63年4月 電子制御工学科を増設（5学科）
- 平成 4年4月 専攻科を設置（生産工学専攻・電子工学専攻）
- 平成 9年4月 工業化学科を生物応用化学科に改組
- 平成15年4月 電気工学科を電気情報工学科に改組
- 平成16年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構として発足
生産工学専攻を生産工学専攻及び生物応用化学専攻に改組（3専攻）
- 平成19年4月 材料工学科を環境材料工学科に名称変更

5年間一貫教育



新居浜高専の規模

平成22年1月1日現在

学科名	教員定員	在籍学生数 (男女子で内訳)	専任教員数
校長	—	—	1人
機械工学科	200人	208 (3)人	10人
電気情報工学科	200人	209 (30)人	13人
電子制御工学科	200人	206 (10)人	10人
生物応用化学科	200人	203 (111)人	13人
環境材料工学科	200人	193 (48)人	11人
数理科	—	—	12人
一般教職員	—	—	15人
事務局	総務課・学生課・技術室	45人	—

教員定員		在籍学生数		教職員数	
本 割	1000人	本 割	1019 (12)人	校長	1人
専攻科	40人	専攻科	65人	教員	84人
				事務人員	45人
合 計		1084人		130人	
		()は留学生で内訳			

留学生数：マレーシア(9)、モンゴル(2)、インドネシア(1)

学生数

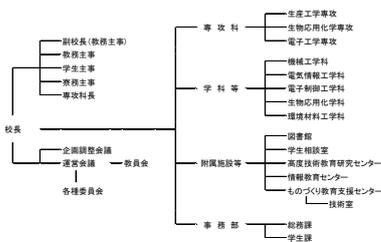
平成22年2月1日現在

学科/学年	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料・材料工学科	計
1年	45	43	42	44	45	219
混合学級	1組 43	2組 44	3組 44	4組 44	5組 44	
2年	39	43	45	39	42	208
混合学級	1組 42	2組 42	3組 42	4組 41	5組 41	
3年	46	50	42	44	45	227
4年	39	35	35	40	32	181
5年	39	38	42	36	29	184
合計	208	209	206	203	193	1019

専攻科	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻	計
1年	12	7	15	34
2年	10	8	13	31
合計	22	15	28	65

単位：人

本校の運営組織



新居浜高専の理念

知恵・行動力・信頼

基本方針

学びと体験を通じて、未来を切り拓く**知恵**と**行動力**を持った**信頼**される技術者を育てる。

新居浜高専が求める中学生像

(アドミッションポリシー)

新居浜高専は、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者の養成を目指しており、次のような中学生を求めています。

- ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- ・自分の夢を持ち、可能性を感じてチャレンジできる人
- ・物を作ったり、動かしだすことが好きな人
- ・目標の実現に向かって考えが工夫し、実行に力できる人
- ・ルールや約束を守り、仲間と一緒に活動できる思いやりのある人

機械工学科 <ul style="list-style-type: none"> ● 物づくりに興味を持ち、物づくりに関する知識や技術を身に付けたい人 ● 物づくりに関する知識や技術を身に付けたい人 ● アイデアを出して、物づくりに取り組むことができる人 	電気情報工学科 <ul style="list-style-type: none"> ● 電気や情報に興味を持ち、物づくりに関する知識や技術を身に付けたい人 ● コンピュータやネットワークの活用に関心がある人 ● 電気や情報に関する知識や技術を身に付けたい人 	電子制御工学科 <ul style="list-style-type: none"> ● 電子回路や制御に興味を持ち、物づくりに関する知識や技術を身に付けたい人 ● コンピュータやネットワークの活用に関心がある人 ● 電子回路や制御に関する知識や技術を身に付けたい人 	生物応用化学学科 <ul style="list-style-type: none"> ● 化学や生物に興味を持ち、物づくりに関する知識や技術を身に付けたい人 ● 化学や生物に関する知識や技術を身に付けたい人 ● 化学や生物に関する知識や技術を身に付けたい人 	環境材料工学科 <ul style="list-style-type: none"> ● 材料や環境に興味を持ち、物づくりに関する知識や技術を身に付けたい人 ● 材料や環境に関する知識や技術を身に付けたい人 ● 材料や環境に関する知識や技術を身に付けたい人
--	--	--	--	---

JABEE

本校では2003年度より生物応用化学プログラムがJABEE(日本技術者教育認定機構)認定を受けたのに続き、2005年度より生産工学プログラム及びシステムデザイン工学プログラムが認定を受けました。

生産工学プログラム (機械工学科、環境材料工学科、生産工学専攻)	生物応用化学プログラム (生物応用化学科、生物応用化学専攻)
環境への影響や循環型社会を配慮しつつ、与えられた制約条件の下での人的・物的・知的資源を有効に活用しものづくりができる、デザイン能力に秀でた技術者すなわち「資源活用型技術者」を養成します。	「生産・品質管理部門、研究開発部門、技術営業部門などのグループリーダーまたはプロジェクトリーダーとなって貢献できる人材を養成します。
	システムデザイン工学プログラム (電気情報工学科、電子制御工学科、電子工学専攻)
	技術者に必要な倫理観と新しいシステムを設計・構築するデザイン能力を身につけ、ものづくりを通して社会貢献できる人材を養成します。

地域連携の推進

- 地域連携活動の「基盤」づくり

新居浜高専技術振興協会“愛テクフォーラム”の結成
 会員：企業・試験研究機関・自治体・経済団体・卒業生
 平成17年7月7日設立

- 地域連携による独創的研究、応用開発研究の展開

共同研究等に特化した研究施設の実現
 インキュベーション・ラボの新設(高度技術教育研究センター別館改修) 平成17年4月

- コーディネーターの配置

四国5高専産官学連携コーディネーターの配置
 (新居浜高専) 平成19年4月

大学と高専等との連携

愛媛大学との連携

協定書を締結(17年2月)
 両校の持つ人的・物的リソースを相互に効果的に活用することにより、教育研究等の高度化、活性化を図る。

〇ものづくりフェスタ in 松山参加(7月31日～8月1日)

四国5高専等との連携

四国5高専研究者検索システムの構築
 四国5高専産官学交流会
 共通テストの実施
 四国5高専産官学連携コーディネーターの配置





サザンクロス大学と学術交流協定締結

平成21年2月18日、サザンクロス大学(オーストラリア)にて、本校校長とサザンクロス大学ホール・クラーク学長によって、学術交流による協定書に調印が行われた。

短期海外英語研修旅行

日時：平成22年3月7日～14日
 場所：サザンクロス大学
 (オーストラリア)



研修内容

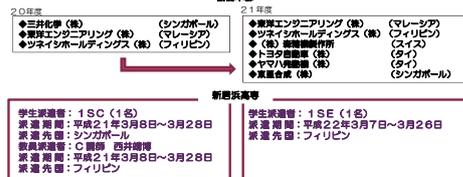
- ・サザンクロス大学の講師による対話形式の英語研修
- ・野生動物公園等への日帰り旅行によりオーストラリアの自然を学ぶ。
- ・サザンクロス大学の学生との交流を通じ、同世代の学生とのコミュニケーションに挑戦する。
- ・現地の一般家庭(ホストファミリー)に宿泊し、生きた語学環境と異文化を体験する。

海外インターンシップ

目的：国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者の養成を行うこと及びそのための共同教育の促進を図る。

プログラム内容 海外事業所等における就業体験

協力企業



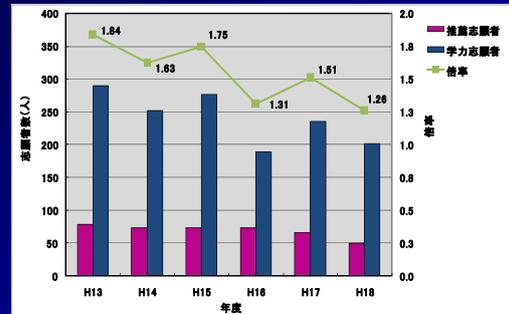
②入学志願者の確保

入学志願者の確保について

教務主事補 西谷 郁夫

平成21年度運営諮問会議 (H22. 3. 8)

志願者数の推移(H13~18年度)



選抜方法の見直し(H18年度)

推薦による選抜

受入数

各学科とも募集人員の35% (40%)程度

出願資格

5科目の評定が、第3学年の1学期と2学期いずれも5段階
評価で平均4.0以上(3.8以上)の人 又は、
数学及び理科の評定が第3学年の1学期と2学期いずれ
も5 (平均4.5以上)の人

推薦者数

中学校が推薦できる人数に関する制約 (削除)

入試会場の増設

推薦選抜: 新居浜高専、松山地区

学力選抜: 新居浜高専、松山地区、宇和島地区、
三好地区、福山地区

広報推進本部の設置(H19年度)

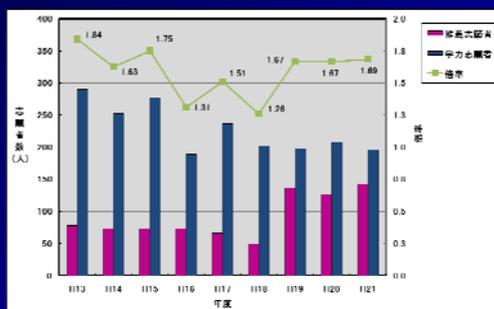
目的

広報活動の総合的かつ効果的な推進と
機動性を図る

組織

- ・入試広報担当
- ・広報誌編集企画担当
- ・イベント担当
- ・ホームページ運営担当
- ・メールマガジン担当

志願者数の推移(H13~21年度)



入試広報実施状況(H21年度) (1)

校長・副校長

- ・校長会理事校への挨拶回り(5月下旬~6月上旬)
新規理事校および校長が交代した理事校11校に出向き、挨拶
をかねて、本校の教育・入試・進路等の概要を説明
- ・地区別学校説明会(6月上旬~下旬)
中学校長、進路指導主事等を対象に、本校の教育・入試・
進路等について説明
参加状況: 東予地区 23校26人、今治地区 5校5人
徳島三好地区 6校7人

入試広報実施状況(H21年度) (2)

入試広報担当

入試広報担当が中学校との窓口となり、33名の教員が、それぞれ、中学校訪問、進路説明を分担して実施

・中学校訪問

1回目:6月上旬～8月上旬 訪問校104校
進路指導主事、3年学年主任等と面会し、本校の概要、入試状況、進路状況、学寮、経費等の説明、および中学校から情報を収集

2回目:12月上旬～1月上旬 訪問校37校(東予地区)
学生募集要項を持参し募集内容の説明、受験希望者の情報を収集

・進路説明会への講師派遣(6月中旬～11月下旬)

中学3年生と保護者を対象に、本校の特色、入試内容等を15分程度で説明
派遣校:44校

入試広報実施状況(H21年度) (3)

イベント担当

・夏季体験学習(7月24、25日)

中学生を対象に、本校の施設や装置を使ってものづくりや実験を体験してもらう。

参加者:565人(昨年度:568人)

・ものづくりフェスタin松山

(7月31、8月1日 愛媛大学城北キャンパス)

小中学生と保護者に、「科学の不思議」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうとともに、新居浜高専を紹介する。

参加者:小中学生 206人、保護者 34人
(昨年度:小中学生 91人、保護者 26人)

・学校見学会(9月5日)

中学生と保護者に、各学科の施設・設備、学生福利厚生施設、学寮等を見学してもらう。

参加者:中学生 216人、保護者 85人
(昨年度:中学生 181人、保護者 66人)



入試広報実施状況(H21年度) (4)

イベント担当

・入試情報コーナーの開設

21年度は、新型インフルエンザのため中止

・他機関主催のイベントへの参加

○春は子供天国事業

主催:新居浜市観光協会

○よんでんグループ科学体験フェスタ

主催:四国電力

○科学体験フェスティバル in 大洲

主催:国立大洲青少年交流の家

○みんな集まれ! わくわくサイエンス広場

主催:愛媛県総合科学博物館

入試広報実施状況(H21年度) (5)

広報誌編集企画担当

・CATV用CMの作成

入試日程等の紹介CMを作成し、10月～12月にかけて、CATVで放送

・平成22年度カレンダーの作成

下敷仕様の広報カレンダーを作成し、県内外の中学2年生に約20000枚を配付

・「はばたけ! 未来へ 2011」の作成

新入生にアンケートを実施し、意見・要望を反映

・新居浜高専説明用CDの作成

平成22年度カレンダー

エンジニアへの道を拓く!

平成 22 年度カレンダー

愛媛県の全中学校と香川、徳島、高知、岡山、広島県の一部の中学校に送付

入試広報実施状況 (H21年度) (6)

- ホームページ運営担当
 - ・ホームページを随時更新
- メールマガジン担当
 - ・月1回メールマガジンを配信
- その他
 - ・在校生からのメッセージの送付
 - ・新入生全員の出身中学校に、近況報告として学生のメッセージと写真を送付

在校生からのメッセージ

平成21年度 生物応用化学科1年生近況報告(在校生からのメッセージ)

四国中央市立川之江南中学校

新居浜工業高等専門学校

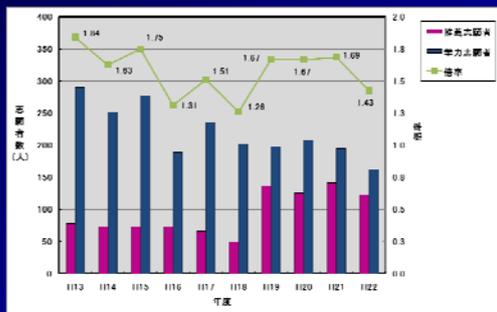
前回運営諮問会議のフォローアップ報告

入学志願者の確保に対して、「マスメディアを活用した教育的成果の公開」の指摘があった。

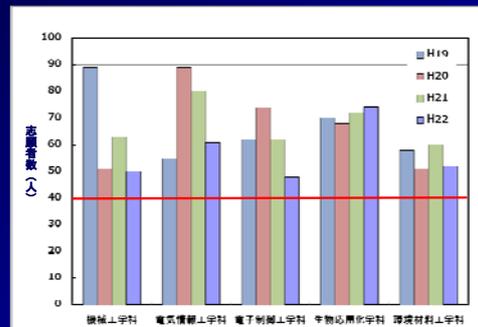
対応状況

- NHK総合テレビ「いよかんワイド」
 - 現代GP「地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～」の商店街活性化パフォーマンスロボ製作プロジェクトにおいて製作した2台のロボット(「熱血あきんど君」と「おコンさん」)が、4月20日(月)にNHK総合テレビ「いよかんワイド」の中で、生放送で紹介された。
- ハートネットワーク「CM放送」:10月～12月に入試日程を流した。
- 新聞掲載
 - 毎日新聞(H21.5.13):介護工学研究会
 - 愛媛新聞(H21.6.29):福祉ロボットの最新性能を体験
 - 愛媛新聞(H21.7.25):夏季体験学習
 - 愛媛新聞(H21.8.1):ものづくりフェスタ in 松山
 - 愛媛新聞(H21.8.21):サンシャインレース松山で優勝(一般)
 - 電気新聞(H21.11.5):第4回エネルギー教育賞優秀賞
 - 愛媛新聞(H22.1.29):高専のロボットについて

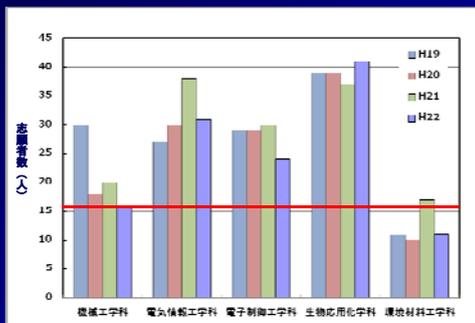
志願者数の推移 (H13～22年度)



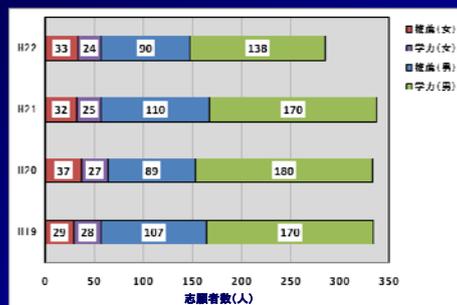
学科別志願者数の推移



推薦選抜志願者数の推移



男女別志願者数の推移



分析

- 夏季体験学習、学校見学会参加人数は昨年と同程度であったが、志願者数が約50名減少
- 生物応用化学科志願者数はやや増加、他の4学科で減少
- 女子志願者数はほとんど変わらないが、男子志願者数が、推薦選抜、学力選抜共に減少



地区別志願者数の推移等も含めて分析し、対策を考える必要がある

③キャリア教育及び教科外学生活動

平成21年度
キャリア教育及び教科外学生活動

学生支援委員会

2010/3/8

6月

学外研修(1年生)

- 1年生
【実施日】平成21年5月22日(金)～23日(土)
【場 所】国立大洲青少年交流の家



6月

愛媛県高校総体

平成21年度の総体は、6月5日(金)～8日(月)、松山市を中心に行われた。本校から、13競技、205名の参加があった。



7月

高専打ち水大作戦2009

打ち水大作戦(5年目)を7月9日(木)12時から校内全域で実施した。指定測定場所において、1.5℃の温度降下が確認できた。



7月

第46回四国地区高等専門学校体育大会

平成21年度の標記大会は、6月28日(日)～7月26日(日)の間、阿南高専を担当校として6高専分散方式で開催された。各種目の主な成績は次のページのとおりであった。

第39回西日本地区高専弓道大会

平成21年度の本大会は、7月11日(土)～12日(日)、久留米高専を担当校として、久留米市で行われた。

7月

四国地区高専体育大会の主な結果

種 技	主な結果	種 技	主な結果
ソフトテニス 男子団体	優勝	バスケットボール 女子	優勝
男子個人	優勝・準優勝	バレーボール 男子・女子	準優勝
女子個人	準優勝	硬式野球	準優勝
テニス 男子個人ダブルス	準優勝	柔道 男子団体	準優勝
男子個人シングルス	準優勝	男子個人60kg級	準優勝
女子個人ダブルス	準優勝	男子個人80kg級	優勝
バドミントン 男子団体	準優勝	男子個人90kg超級	優勝
女子団体	優勝	剣道 男子団体	準優勝
女子個人ダブルス	優勝・準優勝	女子個人	準優勝
女子個人シングルス	優勝・準優勝	陸上 男子やり投げ	優勝
卓球 女子個人ダブルス	準優勝	水泳 男子200m背泳ぎ	準優勝
女子個人シングルス	準優勝	男子100m背泳ぎ	準優勝

8月

第43回全国高等専門学校体育大会

今年度の標記大会は、8月22日(土)～28日(金)の間、都城工業高等専門学校を担当校に九州・沖縄地区で開催された。成績は次のとおりであった。

8月

全国高専体育大会の結果

種 技	主な結果	種 技	主な結果
ソフトテニス 男子団体	準優勝	卓球 女子個人ダブルス	予選敗退
男子個人	優勝	女子個人シングルス	予選敗退
女子個人	3回戦敗退	バスケットボール 女子	1回戦敗退
テニス 男子個人ダブルス	1回戦敗退	柔道 男子個人60kg級	1回戦敗退
男子個人シングルス	1回戦敗退	男子個人90kg級	2回戦敗退
女子個人ダブルス	1回戦敗退	男子個人90kg超級	1回戦敗退
バドミントン 女子団体	2回戦敗退	剣道 女子個人	1回戦敗退
女子個人ダブルス	2回戦敗退	女子団体(第8回)	2回戦敗退
女子個人シングルス	1回戦敗退	水泳	予選敗退
	2回戦敗退	男子200m個人バレー	5位
	1回戦敗退	男子200m背泳ぎ	予選敗退
	1回戦敗退	男子100m自由形	予選敗退
	1回戦敗退	男子100m背泳ぎ	4位
		男子100mバタフライ	予選敗退

8月

第29回にいほま夏まつり(打ち水)

【実施日】平成21年8月2日(日)
【場 所】新居浜商店街(昭和通り)



10～11月

高専三大コンテスト

- 全国高等専門学校ロボットコンテスト(ロボコン) 四国地区大会**
 【実施日】2009年10月18日(日)
 【主管校】詫間高専
 【結果】ベストカップル賞(ロボット名: 燧のためき)・・Aチーム
 
- 全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)**
 【実施日】<予選>2009年6月27日(土)
 <本選>2009年10月17日(土)・18日(日)
 【主管校】木更津高専
 【結果】<課題部門> 敢闘賞(タイトル: eキューブ)
 <自由部門> 該当なし、<競技部門> 予選通過(ユニセル)
 
- 全国高等専門学校デザインコンペティション(デザコン)**
 【実施日】2009年11月14日(土)・15日(日)
 【主管校】豊田高専
 【結果】<構造デザインコンペティション部門>
 優秀賞(作品名: デルタブリッジ)
 

10～11月

ロボコン2009



プロコン2009



デザコン2009



11月

第44回国領祭(中止)

【予定日】平成21年11月6日(金)～8日(日)
 【テーマ】「CHANGE×ECO」(エコ学園祭)
 【新企画】3校合同企画(エコ学園祭スタンブラリー)
 →(新居浜高専11/7・8、愛媛大学11/14・15、松山大学11/21・22)



- エコ容器“バガストレー”の使用
⇒ 使用後は本校で処理
- 間伐材割り箸の使用
⇒ 間伐材の有効利用
- 衣類回収リサイクル
⇒ 衣類のリサイクル活動
- エコ展示
⇒ 各学科のエコに関する展示
- 案内用HPの開設
⇒ 学外への情報発信



12月

第31回四国地区高専総合文化祭の主な結果

平成21年度総合文化祭は、12月12日(土)、13日(日)、香川高専(高松キャンパス)を担当校として、丸亀市(丸亀市民会館)で行われた。

部 門	学 生	主な結果
絵 画	4D学生(女子)	佳作
	4Z学生(女子)	佳作
写 真	3M学生(男子)	佳作
英語スピーチコンテスト (自由弁論の部)	3E学生(男子)	1位
プログラミングコンテスト	団体	優勝



12月

第31回四国地区高専総合文化祭



1月

企業・若者交流会(ジョブ・コラボ)

1月

体育祭(後期クラスマッチ)

【実施日】平成22年1月26日(火)
【場 所】新居浜高専グランド

プログラム		開始時間
午前の部	1. 開会式	9:30
	2. ラジオ体操	9:35
	3. ショボセリゲーム	9:40
	4. DJD(女子のみ)	10:10
	5. 早食い競争	10:40
	6. 疾走!〜一心同体〜	11:20
昼休み		
午後の部	7. ○×クイズ2010	12:50
	8. 騎馬戦	13:30
	9. 学科対抗リレー	14:00
	10. 閉会式	14:20

【競技結果】
1位 機械工学科
2位 電子制御工学科
3位 環境材料工学科
4位 生物応用化学学科
5位 電気情報工学科

学科対抗リレーの
アンカーは各学科
教員!!!

1月

体育祭(後期クラスマッチ)



1月

第8回高専ソコデカラ

【実施日】平成22年1月30日(土) 17:30~21:30
【場 所】新居浜市市民文化センター中ホール
入場者数:252人
募 金:15,256円
(ユニセフへ)

ステージプログラム	
部・愛好会	演 題
ダンス愛好会	ダンス
吹奏楽部	めざせポケモンマスター 「古畑任三郎」のテーマ 「踊る大捜査線」ハイライト 侍戦隊シンケンジャー ドラゴンクエスト(藤堂アレンジ)
音楽愛好会	ヒミツ
休憩時間(カマコン)	
演劇愛好会	日本むかしばなし
奇術部	マジック、ジャグリング
ロビー展示	
写真部、文学漫画創作愛好会 美術部、マルチメディア愛好会	



④学寮運営について

学寮運営について 2010.3.8 寮務主事 皆本佳計



学寮の現状

	向陽寮	雄風北寮	雄風南寮	蛭雪寮	青雲寮	清風寮	
定員	166	87	63	59	59	60	494
現員	93	76	58	47	56	44	374

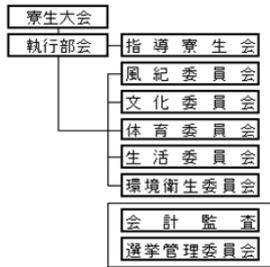
	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科
	73	83	84	61	63	15
	6	12	13	11	2	1

女子・内数

食堂 383名

寮生会

寮務委員会の指導のもとに寮生の自治協力によって、寮生活が円滑、有意義に営まれることを目的として、寮生会が組織されています。



寮生会組織図

低学年 (1~3年生)

時刻	事項
7:10	起床
	整頓・清掃・洗面
7:20	朝食 (~8:20)
7:40	点呼
	協同課業
	登校準備
8:30	登校終了
8:40	施設
11:45	昼食 (~12:45)
放課後	開錠
	自由時間
17:00	夕食 (~19:30)
	入浴 (~20:00)
20:00	静粛時間 (~翌朝)
	共用部分清掃
21:00	門限・点呼
	学習時間 (~23:00)
23:00	就寝準備
23:30	消灯

高学年 (4,5年生、専攻科生)

時刻	事項
7:20	朝食 (~8:20)
11:45	昼食 (~12:45)
17:00	夕食 (~19:30)
	入浴 (~20:00)
20:00	静粛時間 (~翌朝)
	共用部分清掃
21:00	門限・点呼
	学習時間 (~23:00)
23:30	自主消灯



新入寮生荷物搬入

4/7



学年集会

毎月実施
21:30~23:00





居室訪問
毎月実施
21:30~23:00



寮の食事



寮生大会
4/23



バーベキュー大会
5/9

翌日に
寮マッチ(スポーツ大会)
と大掃除



防火・避難訓練
7/3



4階からです



納涼祭 夏休み直前 7/16



夏季リーダー研修
8/29,30
(小豆島)



部屋決め集会
9/10

新型インフルエンザ流行
151名
10/25 8名
10/26 12名
10/27 9名
帰省させる
迎えに来るまでは隔離
誰が世話を(夜間・休日)

クリスマス・バイキング 12/24



寮マッチ 1/16



学年対抗



送別会

寮生大会 3/2



⑤ 学生相談室から

学生相談室から

新居浜高専学生相談室
室長 大村 泰

2010/3/8 1

はじめに

- 沿革:平成5年度発足
室長:H5~13(近藤), H14・15(鴻上),
H16・17(野口), H18・19(今城), H20・21(大村)
- 目的:相談室は、本校学生の持つ個人的問題についての相談に応じ、その解決のための適切な助言及び指導を行い、より良い学生生活が送れるための支援を行う。
(学生相談室規程、平成5年3月)
- 場所:本校保健室

2010/3/8 2

学生相談室のスタッフ

- 室長 : 1名
- 学内相談員 : 教員7名(各科1名)
+看護師 (計8名)
- 学外
カウンセラー : 3名

精神科医, 臨床心理士, 学識経験者
(元高校教員)

2010/3/8 3

相談室業務

- 学生相談
- 学生に対する講演の実施
- 教職員に対する研修会の開催
- 学外の研修会への参加および報告
- 学生(保護者)への相談室利用の呼びかけ
- 学内での連携
- 資料収集, 年報作成

2010/3/8 4

学生相談体制

- 学内相談員 : 随時受付
- 学外カウンセラー
 - ・学識経験者 : 毎週月曜, 水曜 16時~
 - ・臨床心理士 : 毎週金曜 16時~
 - ・精神科医 : 毎月第3木曜 16時~
(原則予約制, 予約が入ってなければ飛び込み受付可)

2010/3/8 5

学生相談件数・内容

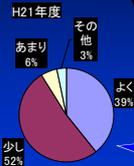
- 学外カウンセラー
来校回数97回, 相談回数54回(H20)
- 学内相談員
相談回数312回(H20)

相談内容	割合
友関係	24%
心の病	24%
学業問題	13%
進路	7%
家族問題	11%
その他	20%

2010/3/8 6

学生に対する講演会

時期: 6月
 対象: 第1学年全員
 内容: カウンセリング講演会
 「カウンセリングとは」
 講師: 学外カウンセラー(臨床心理士)



カウンセリングというものを少しは理解できた = 90%以上

2010/3/8

7

教職員に対する研修会

- H20/8月: 「キャンパス・ハラスメント ～被害者にも加害者にもならないために～」, 広大・岡山理科大 非常勤講師, 心理相談員 市場恵子 先生
- H20/9月: 「うつ病と自殺予防について」, 愛媛労災病院・精神科, 島根大教授 稲見康司 先生
- H20/12月: 「ソリューション・フォーカスト・セラピー ～教育相談を中心に～」, 愛大教育学部 相模健人 先生
- H21/6月: 「～現代人の自分探し～ 発達障害と支援について考える」, 愛大非常勤, 臨床心理士 古林勝也 先生

年2回程度開催

2010/3/8

8

学外の研修会への参加

- 全国学生相談研修会 (日本学生相談学会)
- 全国国立高専メンタルヘルス研究集会 (国立高等専門学校機構)
- 障害学生修学支援セミナー (日本学生支援機構)
- 中国・四国メンタルヘルス研究協議会 (日本学生相談学会)
- 発達障害のある学生支援研修会 (日本学生支援機構)
- 学生相談インターカークセミナー (日本学生支援機構)
- 障害学生修学支援のための教職員研修会 (日本学生支援機構)

相談員のスキルアップ

2010/3/8

9

相談室利用の呼びかけ

- 入学時の説明会, リーフレットの配布
- ホームページでの案内と掲示
- “学生相談室だより”の発行(月1回)
- 学外カウンセラー来校時の案内看板
- 宣伝用クリアファイルの配布
- アンケートの実施
- 保護者懇談会での相談受付

2010/3/8

10

学内での連携

- 保健室へよく来る学生
看護師 → 学級担任, 相談室, アドバイザーなど
- 科目担当教員から
授業の様子 → 学級担任, 看護師, 相談室など
- 学級担任から
日常の様子, 学生からの相談 → 看護師, 相談室, 学外カウンセラーなど
- 寮から
寮生の様子 → 看護師, 学級担任, 相談室, 学外カウンセラーなど
- 連絡会の開催(月1回) 学生相談員

2010/3/8

11

学生相談室年報

- 相談件数, 内訳
- 学内教職員研修会概要
- 学外研修会参加報告
- 学生相談室だより
- 書籍, 資料一覧

2010/3/8

12

今後の課題など

- 相談員の認知度の上昇
- 相談室の宣伝
 - 学外カウンセラーの来校日の周知
 - 相談予約方法の周知
 - 相談室ホームページの充実
- 学校の雰囲気をよくする取組み
 - トイレや廊下の壁が壊される事件などに鑑み、心に響く言葉、顔が緩むような写真の掲示などの検討
- 学外カウンセラーと学内相談員との懇談

2010/3/8

13

⑥前回運営諮問会議のフォローアップ報告

・第4回運営諮問会議の各委員の意見に対する対応

指 摘 事 項 等	対 応 状 況
<p>1. 地域と連携した教育活動の取組</p> <p>○ 出前授業への参加学生の偏りをなくし、多くの学生、教員の参加を</p> <p>○ 現代G P 終了後の活動など (21年度の報告)</p>	<p>以前は、出前授業に行く学生と教職員に偏りがあった。</p> <p>そこで、学校全体としては、1つのテーマを複数の教職員が担当できるようにしており、主となる教職員の都合が悪い場合は他の教職員が対応できる体制を整えている。また、学生には個々に具体的な目的を明確にして参加するようにしている。</p> <p>また、一例として、生物応用化学科では1～3年生の間に少なくとも1度は出前授業に参加できるような取組を試行している。なお、平常授業日実施の場合は特別欠席扱いにする必要があるために、特別欠席扱いでの参加は1年に1度と決めている。現3、4年生は平成21年度までに全員が参加しており、現2年生も半数以上がすでに参加している。</p> <p>「ものづくりフェスタ in 松山」、「科学体験フェスティバル in 大洲」、「よんでんグループ科学体験フェスタ」などの各種イベントの参加も、出前授業の同様に扱っている。</p> <p>小中学校向けの教材開発などを中心に、「ものづくり教育支援センター」が主体となって活動をしている。平成21年度の活動としては以下であり、今後も継続していく。</p> <p>7月28日(火) 中学校技術教員実技研修会 (中学校教員：7名が参加)</p> <p>8月5日(水) 小中学校理科教員実技研修会 (小学校教員：12名、中学校教員：19名が参加)</p> <p>※科学技術振興機構の理数系教員指導力向上研修(希望型)の採択を受けて実施</p> <p>出前授業については、上記に記載済みで省略した。</p>

地域と連携した教育活動の取組

第5回運営諮問会議用資料（平成22年3月8日(月)）

地域と連携した教育活動の取組

- 現代GP終了後の活動
 - ものづくり教育支援センター（略称：ものづくりセンター）
- 出前授業
 - 高度技術教育研究センター（略称：高技センター）

高技センター・中山 享

ものづくりセンター

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」とは、社会的要請の強い現代的課題に対応したテーマを設定を行い、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクトを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、これからの時代を担う優れた人材の養成を推進することを目的とするものです。

- H18年度の募集テーマは、
- ・地域活性化への貢献(地元型)
 - ・地域活性化への貢献(広域型)
 - ・知的財産関連教育の推進
 - ・持続可能な社会につながる環境教育の推進
 - ・実践的総合キャリア教育の推進
 - ・ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発

新居浜専攻は、特色ある教育内容や、これまでの教育・地域連携の実績が評価され、「**地域活性化への貢献(地元型)**」で採択されました。

<取組の概要>

工都新居浜の活性化に資するために、身近な地域社会と連携し、「**ものづくり人材育成**」及び「**まちづくり・地域の求心力向上**」の2テーマに焦点を合わせて、学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動を、PDCAサイクルを回しながら、継続的に展開するシステムを構築します。特色は、低学年と高学年を一つのグループに連結して、ものづくり活動と地域出前授業の双方を、体験学習として実施することです。低学年で活動の基礎を学んだ学生が、順次、高学年に進んで立役者となって教える・指導する体験を通じて、プロジェクトマネジメント能力の発展を図り、ものづくりに関する知恵と行動力をもつ、信頼される技術者として成長していくことができます。

ものづくりセンター

現代GPの実績(1)

「川の流れ観察装置」の泉川小学校での活用例
この装置は中級小学校(当時)の加藤茂樹先生が考案したもので、これに少し改良を加え、新居浜専攻の学生により小学校の授業で活用できるように10台製作したものです。
この「川の流れ観察装置」は小学校6年生の「流れる水のはたらき、流水による土地の変化」の単元で活用することができます。ご協力いただいた泉川小学校の会田先生から当日の様子や感想をいただきました。
その中で児童たちから

- 上流、中流、下流の様子が一度に見られて比較できた
- 内側と外側の川の流れの違いがよくわかった
- 横から見られて流れがよくわかった

などの感想がありました。



ものづくりセンター

現代GPの実績(2)

「青少年ものづくりアイデアコンテスト」

現代GPの取組の一環として、新居浜市内の小中学生から各校の自選テーマとする「青少年ものづくりアイデアコンテスト」の作品募集を行いました。**低学年の部135点、高学年の部117点**の応募があり、新居浜専攻の現代GPプロジェクト担当教員による一次審査を経て、審査委員会を開催し、各賞が決定されました。新居浜市教育委員会委員長を始めとする来賓にご出席いただき、受賞者のご家族も出席され、盛大に行われました。

小学校低学年の部

最優秀賞「総合科学博物館」
河野輝人くん(大生野小学校3年)

小学校高学年の部

最優秀賞「ぞうすいき」
高橋佑希さん、船野未貴さん、渡邊真奈さん(泉川小学校6年)

ものづくりセンター

現代GPの実績(3)

各種ユニークなロボット製作による科学技術の啓蒙と地域貢献
地域の文化に密着したテーマで、人々に親しまれる各種のユニークなロボットを製作する活動を通じて、地域社会に貢献している。
下記の写真3および写真4は、現代GP「地域連携プロジェクト型ものづくり活動～工都新居浜活性化プラン～」における**商店街活性化パフォーマンススロボ製作プロジェクト**の一環として製作されたものである。



図1. 切山地区案内ロボット
平家専ら武者型ロボットが音声と身振り手振りで見守り案内をする。

図2. 電子小女部がスキ親子と小女部がスキロボット
親子がスキの親子3体の親子がスキと子供を乗せたロボットが子供を乗せた。

図3. 熱血あきんど君
売り込みチラシのキャラクター「熱血あきんど君」のからくり時計。スロットマシンとして遊ぶこともできる。

図4. おコンさん
着いたキツネの着せ替えロボット。

ものづくりセンター

現代GP「小中学校教員教材開発実技研修会」関係フォロー

<その1> 中学校技術教員実技研修会/7月28日(火)

【実施概要】

参加者：中・高・東予地区より7名の教員

午前→ものづくり研修として「登壇の流れてみよう」と題して、「観音作り」
午後→コンピュータ研修として「簡単な制御プログラムについて」と題して、
TV2というソフトウェアを用いたプログラムの作成実習

【参加者の感想】

- ・観音作りは安価な材料費で**生徒が興味をもてるテーマ**であり、楽しく制作できました。
- ・TV2による動画作りは、**とても分かりやすく中学生でも取り組めそう**なテーマでした。
- ・来年度は、新学習指導要領にある「エネルギー変換に関する技術」を希望します。



ものづくりセンター

＜その2＞小中学校理科教員実技研修会／8月5日（水）

（実施概要）

「科学技術振興機構の理数系教員指導力向上研修（希望型）」への申請・採択

テーマ：「創発型電気回路ユニットの作製とその活用」

参加者：小学校教員12名、中学校教員19名（合計31名）

本館・ものづくり講習として実験用の電気回路ユニットの作製
本館・作製した教材の活用事例として実験ユニットによる実習やユニットを利用した電池の作製

（参加者の感想）

教材作製とその活用実習を同時に行えたことで、非常に**実のある研修**になりました。



H21年度取組状況
小中学生向け「出前サイエンス講座」
＜H17年度から開設＞

H21年の開設講座一覧

分野	番号	テーマ
環境	1	・雑菌にやられぬエネルギーについて
	2	・地球温暖化対策
	3	・道徳エネルギー実験！
	4	・身近にできる省エネについて
	5	・やもろい空気環境
	6	・リサイクル生活の仕組み！
化学	7	・身近な電池（電池の仕組みを調べてみよう！）
	8	・液体状態で凍らせてみよう
	9	・最後はこぼれちゃう
	10	・身近にあるLEDが素材
バイオ	11	・身近なバイオ燃料のジーン
	12	・玉ねぎからDNAを取り出してみよう
電気・電子	13	・電子で作ってみたい
	14	・モーターを作ろう
物理	15	・LEDで遊ぼう
	16	・大気の大気圧～んよう
	17	・空気の方で遊んでみよう
材料	18	・古代のロマン！骨髄液を作ろう！
	19	・黒紙から機能を取りぞう
	20	・紙で遊ぼう
福祉	21	・人やぬいずマシン（ユニバーサルデザイン/バリアフリーデザイン）について
	22	・創意力を競い合おう！

高技センター業務紹介

- ① 学生に対する高度技術教育
- ② 学内共同及び学際的研究の推進
- ③ 地域産業との共同研究及び技術相談の推進
- ④ 地域産業が必要とする実験・研究設備の提供
- ⑤ 各種セミナーなどの開催による学術情報の提供により地域産業の技術の高度化・情報化へ貢献
- ⑥ 地域の小中学生及び市民に対し本校の持っている様々な分野の知的資源を出前講座などにより提供

H21年度新たな取組

- ① 特許出願数の向上
→ 発明届け10件
- ② 四国6高専としての全国規模の催し物への出展
→ 平成21年度のテーマ「食品加工技術」
① 第10回学生発案大会（6月、京都国際会議場）
② 水産漁業プラットフォーム・新居浜視察会ポスター展（7月、東京ビックサイト）
③ アグリビジネス創出フェア2009（11月、専修メッセ）

継続取組

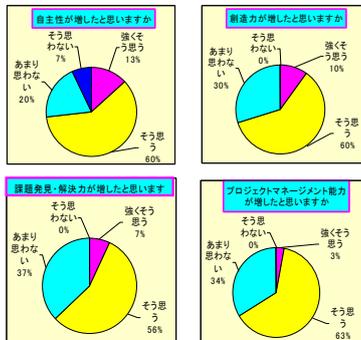
- ① 「第44回工業技術懇話会」（近畿地域の企業を主体、行政職員、本校・学生）の開催 → H15年度～
- ② 「第10回科学技術特別シンポジウム（本校・専修生、一般者）」の開催 → H12年度から毎年1回開催
- ③ 「新居浜高専技術シーズ展」の発行 → H18年度～
- ④ 「海南タイムズ」への「新居浜高専技術シーズ」の連載 → H18年度～
- ⑤ 新居浜市役所でのパネル展示 → H18年度～



本校HPによる案内

本校HPによる案内

H20年度 参加学生の自己評価(1)



H20年度 参加学生の自己評価(2)

学年を越えたグループでテーマの設定や色々な課題を解決できたことは、通常の授業では得られない以下のような学習ができたと思われる。

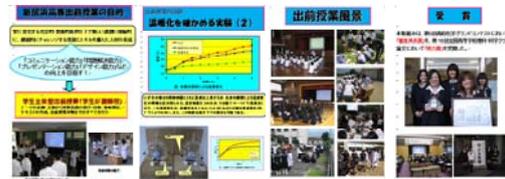
- 1) テーマの企画・立案から装置の製作・改善、事前測定、テキストの作成、そして、出前授業体験といった一連の取り組みができたことは、「**デザイン能力**」の向上に役立った。
- 2) 期待した結果が得られず、実験が行き詰ったとき、その原因や問題点を検討することで、「**課題発見とその解決能力**」が身についた。
- 3) 身近な材料を代用品として応用したり、授業の工夫などで、色んなアイデアが発想できたことは、「**創造力**」「**発想力**」が発揮できた。
- 4) 生物応用化学科の学生としては「ものづくり」をイメージするのが難しく、また、体験する機会も少ないが、本出前授業に携わることで、「**ものづくり体験**」ができた。

<広報>新居浜市役所でのパネル展示

H21年4月実施



農業・漁業(アンケートから)
 ・体験ネットの使用方法が分かり難かった。
 ・パネルの内容ではなく、配達の工夫(立体的な表示など)が欲しい。
 ・学生の手作り感が分かるようにしてほしい。体感できるパネル表示は教育的にも良いと思う。
 ・受講した小学生の様子(子供の声も含む)も、もう少し色々な角度から感じ取った。
 ・もう少し大きいパネルの方が見やすいと思います。
 ・受講した子供たちの写真も多くあったほうが良いのでは？



外部からの評価(1)

- 1) 第5回高校化学グランドコンテスト「**審査委員長賞**」を受賞
- 2) 第15回全国高等学校理科・科学クラブ研究論文「**努力賞**」を受賞

<講評(抜粋)>

…**新しい視点**に関する論文である。…(略)…「学生による企画立案、装置製作、測定、出前授業」を行っている点に特徴がある。今後高校、大学においてこのような試みが多くなされることを期待すると共に、本論文がそのような試みの**きっかけ**と成ってくれることを願いたい。

- 3) 東京都の教育委員会からの視察
- 4) H21年度の就職(面接)時においても、出前授業に参加したことが高く評価された。

外部からの評価(2)

第4回電気新聞<エネルギー教育賞>高校・高等学校の部で優秀賞を受賞!

第4回電気新聞(社)は、環境・エネルギー教育推進委員会(会長:日本電気協会)の協賛のもと、エネルギー教育の普及・啓蒙を目的として、毎年「エネルギー教育賞」を授賞している。今年度は、環境・エネルギー教育の普及・啓蒙に貢献したと認められた、全国の高校・高等学校の中から、優秀な作品を表彰した。本賞は、環境・エネルギー教育の普及・啓蒙に貢献したと認められた、全国の高校・高等学校の中から、優秀な作品を表彰した。本賞は、環境・エネルギー教育の普及・啓蒙に貢献したと認められた、全国の高校・高等学校の中から、優秀な作品を表彰した。

(社)日本電気協会新聞部・電気新聞「第4回エネルギー教育賞・優秀賞」を受賞!

- 本校の取り組み事例
- 環境・エネルギー教育への取り組み
 - 環境と人間」「環境化学」「電気化学」等の授業科目の導入
 - 高等科も水大作業の実施
 - 学生主体型・地域連携型の取り組み
 - 学生主体型出前授業の実施 **出前授業**

講評
 学生が小中学校への出前授業や出前実験指導を新居浜市との協定で実施し、参加する学生の割合も高い。学生の主体的な参加によるところに特色がある。
 学生は、身につけたエネルギー環境の知識を、出前授業を通して発信し、自信を付けているのではないだろうか。

H22年度以降の取組

学生による新規「出前授業教材」の開発を実験科目に導入する予定である。



ご清聴ありがとうございました。



課 題

- 1) 出前授業を実施する時間帯は、学生は講義中であることが多い
→ 学生1人当たり年1回の特別欠席を認めることで解決
- 2) 自転車等による学生の移動可能な距離は限られている。
また、雨天時の移動方法
→ 学校の車(運転手付)が使用できるように実施日を調整
→ 公共交通機関の利用(経費の問題)
- 3) 全学生が参加できる出前授業数の確保
→ 教育委員会、公民館等と連携することで解決
- 4) 出前授業実施のための予算措置が必要である。恒常的な経費の確保
→ 身近な代用品を用いた経費のかからない出前授業教材の開発
→ 地域企業と共催するタイプの出前授業として展開

4. 意見交換

- ①概要説明
- ②入学志願者の確保
- ③キャリア教育及び教科外学生活動
- ④学寮運営について

(柳澤議長)

どうもありがとうございました。今、概要説明、入学志願者の確保、キャリア教育及び教科外学生活動及び学寮運営について、この4つのテーマで説明いただいたのですが、これらを通じて何かご質問・ご意見があれば、委員の方からお願いします。

(平田委員)

寮生を含めまして、図書館の利用状況をお教えいただけますか。工学系なので、ちょっと気になるのでお教え願いますか。

(柳澤議長)

では、図書館の利用状況についてお願いします。

(学生主事)

まとめてはいるのですが、手元にございませんで後ほど報告いたします。

(柳澤議長)

では、後ほどお願いいたします。

(渋谷委員)

今、様々なご報告をお聞きしまして、私自身が非常に感銘を受けているところですが、大学の場合には、学生は既に反抗期を過ぎて入ってくるので、それほどではないのですが、中学校を出たばかりの学生というのは、さぞかしご苦勞が多いことと思います。それよりも、最近反抗をしない方が私には気になる場所でありまして、そのあたりのご苦勞なども聞かせていただければと思います。

志願者の確保についても報告いただいたのですが、志願者数が、少し、今年あたり下がっているというのは全国的な傾向でして、こちらだけの問題ではないだろうと。むしろ、将来は、グローバルな少子化という世界の中で、どう差別化を図っていくかというのが課題になるかと思っています。その中で、特に志願者が少ない学科としてあがっている環境材料工学科というのは、日本でも、世界的に見ても、これから非常に重要な分野で、民間技術的には発展が期待されているのと思うのですが、これは、私が存じ上げないのですが、全国的なことなのか、新居浜高専特有のことなのかお答えいただきたいのと、今後どのような対策を考えておられるのかお聞かせください。

(環境材料工学科主任)

ご質問の他の学校との比較というのは、データを持っていないので分かりませんけれど

も、環境材料工学科は名称変更しまして、少しずつ、従来の材料工学科に比べて志願者数も増えて、推薦の方については、昨年と比べて落ちてしまったんですけども、広報活動等いろいろありますので、具体的な行動については学科で知恵を絞ってやっているのですが、効果がなかなか出ていないのであります。

(渋谷委員)

これは非常に重要な分野なので、これは新居浜高専だけの問題ではなくて、何か知恵を絞って、それぞれの高専、大学が対処法を出していくべきだろうと思ひ、頑張っていっていただきたいと思ひます。

続けてよろしいですか。

(柳澤議長)

はい。どうぞ。

(渋谷委員)

これから入学しようとする学生、今いる学生が、将来の夢を持ってやる気になってもらうという方策として、我々、外から見ていて一番効果的だと思ひるのがコンテストです。ロボコンというのがよくテレビなどに出ますが、外から見てみると、このコンテストというのがロボットばかりなんです。ロボットというのは、非常におもしろいのでマスコミには受けるんだらうと思ひますけれども、先ほどお聞きしまして、プロコン、デザコンというものもあるようですから、他にもたくさんコンテストがあるようなんですけれども、やはり、やるからには、やっている学生諸君だけではなく、外から見ても、これはおもしろいと思わせないとやはり効果は現れないだらう。たくさんあるような感じはするんですけれども、ロボットだけではなく、いろいろなコンテストを考えていただいて、新居浜高専発の、発祥の地が新居浜高専のコンテストを是非作っていけば良いんじゃないかと、最初は四国くらいで始めて、そして日本、世界へ。学生がそれを見て、「これを俺はやる。」という気にさせる、そういった工夫をしていただければと思ひます。

そのあたりについてご意見、高専側からの話があるようでしたらお願いします。

(校長)

ロボコンがマスコミに露出しているというのは、実は、ロボコンの大会自体がNHKと共催でして、NHKに番組作りをしていただいているということでありまして、非常に世間に露出している感じはします。先生が今言われたこと、他のいろいろなコンテストも重要だと思ひますので、今後、広報活動のあり方について検討させていただきたいと思ひます。

(柳澤議長)

図書館について、報告できることはありますか。

(学生課長)

今年度は、3月1日現在でございますけれども、入館者数、学生4, 315人、貸出冊数は11, 235冊となっております。

(平田委員)

ありがとうございました。数は多いですね。これは寮生がメインですか。

(学生課長)

いいえ、学校全体でございます。

(柳澤議長)

他にございませんか。

(加藤 青野委員代理)

新居浜高専はすばらしい取組をされていると、私は個人的には認識しております。特に、5学科の中で、特許の関係なんですけれども、やはり、5学科に関連して公開されている財政誌の方から公開になっている特許関係の中で、新居浜高専らしい取組、特にものづくりのまち工都新居浜に相応しい分野であるとか、或いはそれに近い未利用の公開流通特許などを利用して、新居浜高専らしい成果を今後出していただければと、個人的な要望ではあるのですが、是非、そのような新居浜高専であって欲しい。勿論、それに向けての取組はなされていると思うのですが、その辺りを高専運営の柱の1つに位置付けていただければありがたいと思っております。

それと、入学志願者の出身別によると思うのですが、特に、機械工学科の学生の新居浜市内における就職者の割合がどれくらいなのか、参考までにお教えいただければと思います。よろしく願いいたします。

(柳澤議長)

では、これに関して回答できますでしょうか。

(高技センター長)

特許関連について、簡単に説明させていただきます。後で、昨年度の会議のフォローアップがありますので、その中で説明させていただこうと思っていたのですが、特許に関しては、期待されているほどの数は保有しておりません。高専機構になって今年で6年経つのですけれども、新居浜高専として出願している特許は7件だったと思います。

先ほどから何度か話が出ています香川高専が、今年から拠点校として、今後、産学連携・知財の中心になっていく学校であります。その中に、四国知財委員会というのができまして、四国の各高専が持っている特許を全部まとめて、四国内、若しくは全国の企業に持ってまわって、PRしようという動きがありまして、今、それ用に、冊子を作っておりますので、それを地元の新居浜でも活用いただけるようにと思っております。

(柳澤議長)

それでは、先程の機械工学科の件に関してお願いたします。

(機械工学科主任)

先程のご質問についてですけれども、現在、本科5年生39名が卒業、うち3名が新居浜に就職します。専攻科生については、1名が新居浜に就職します。

これと合わせてお話ししたいと思っていたのですけれども、昨年、長期インターンシッ

プというものをやりまして、それは生産工学専攻生が主としてやったものですが、今までになかった実務型のインターンシップということで、東予産業創造センターや商工会議所など、いろいろお力添えをいただきまして、学生を参加させることができました。ほとんどが生産工学の機械の学生だったのですが、我々としては、半ば強制的に新居浜に就職をという訳にはまいりませんので、どうしても学生と親御さんの希望で、どこどこへ行きたいということ話し合うという状況の中で、長期インターンシップというものを実際に学生に体験させてもらった中で、メリットとしてあったのが、「こういう会社があったということ初めて知った。」ということ、初めて知ったという機会が非常に良かったことだと思っております。

企業の方たちからは、どうも新居浜高専は敷居が高いというお話を前は聞いたのですが、これを終えて、その敷居が取り除かれたと思っております。第2弾をまた、今年お願いすることにしておりますけれども、学生の評価としては、今は、別の会社に行くけれども、将来的に地元でUターンで帰ってくるかも知れない。その時に、ここでの企業の経験が非常に役に立つかもしれない。こんなことをやっている企業が新居浜にもあったのだと知った。そういったところで道筋はできたのかなと思います。

長期インターンシップを含め、やはり、遠回しかも知れませんが、こういう形は必ずついていくと信じておりますので、この活動は続けていきたいと思っております。また、ご協力のほどお願いします。

(加藤 青野委員代理)

ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

先ほどの特許の関係なのですが、特に産学官の中で、例えば、高専が持たれている研究シーズはもちろんのこと、有休特許なども活用して、産学官連携の中で、新居浜地域が抱えている課題解決につながるものであるとか、或いは、新居浜高専らしい新たな取組とか、その辺り、特に、コンテスト等、学生の志気を上げるのに有効な手段であるというお話もあった中で、そういった方向で、それぞれ5つの学科の中で、有休特許を研究材料として、今後取り組んでいただければと希望します。せっかくの有休特許ですから、学生たちの中にも、その辺のすばらしい知識、造詣の深い学生もおいでるかと思っておりますので、是非、それに取り組んでいただければと思います。

(堺委員)

中学校はどこでもだと思っておりますが、3年生や保護者を対象に高校説明会を学校で行います。新居浜高専の方が、中学校へパンフレット等を持ってこられ訪問されるのは、非常にありがたいので、それらを生徒たちに紹介するのですが、その高校説明会の時に、お願いをしたら、来て、生徒たちや保護者を前に説明していただけるかどうか。それをする、随分直に話が聞けるということで、生徒たちが新居浜高専に対して持つイメージやパンフレットだけではなく、直接、おもしろさなどにも触れる機会になるとは思いますが、いかがでしょうか。

(校長)

学校説明会にて説明いただきたいとの御要望がございましたけれども、今までも要請があれば喜んで、講師派遣させていただいておりますので、是非、依頼していただければと思います。よろしく願いいたします。

(堺委員)

分かりました。それにつきましては、また、何らかの形で伝えておきます。

(柳澤議長)

他にはございませんでしょうか。

(佐々木委員)

いつもお世話になります。私の方からは、質問というよりはお礼を述べさせていただきます。今日もご説明のありました商店街を含めましたいろいろな活動に、参加いただける回数や人員が増えているということで感謝しております。

就職のことを私はいつも質問していたので、今日は聞かないと言うことで考えていたのですが、資料を拝見したらございましたし、長期インターンシップにつきまして、私も鉄鋼関係等をまわった時に聞いたら、企業の方も、非常に良かったという反応もありましたので、受入の方が、また努力をしていかなければならないですし、また、我々の方も残っていただけるような努力をしたいですし、こういったことを考えて欲しいというような要望がございましたら、逆におっしゃっていただけたらと思います。

就職について、今の不況による就職難という影響はあまり受けていないというように捉えてよろしいのでしょうか。

(校長)

就職状況については、やはり、不況の影響を受けております。本科では、去年は求人倍率が20倍を超えていたのですけれども、今年は、1月末現在で16倍ぐらいに落ちております。ただ、落ちたといいますが、16倍あるのですけれども。それから、専攻科については、去年40倍程だったのですけれども、今年は30倍ということで、少し下がっているという状況です。従いまして、やはり不況の影響はございました。

(佐々木委員)

ありがとうございました。

(柳澤議長)

他にはございませんでしょうか。

(塩田 北山委員代理)

高専というところは、中学校を卒業して入ってこられて、5年生まで、或いは専攻科まで在籍する。少なくとも5年間、入学されてから卒業されるまで、自主性を重んじて学生として扱われているということなのですけれども、入学されてから卒業されるまでに、無事に卒業される学生たちが少ないという風にお伺いしています。高専の全国平均的には、四分の三ぐらいの学生が卒業され、四分の一ぐらいは卒業できないと聞いているのですが、

新居浜高専はいかがでしょうか。もし、その辺りで、特に注力されているようなところがあればご説明いただければと思います。

(校長)

地区別学校説明会などを行った際に、中学校の進路指導担当の先生方からそのことを指摘されます。高専の場合はドロップアウトが多いのではないかと。これは、やはり高専が理系の学問の場ですので、どうしても基礎を積み上げて行かなくてはならず、なかなか勉強についていけないということがございます。あと、中学校の段階、非常に若い段階で、自分の将来を判断するわけです。そうした時に、必ずしも自分の意向ではなく、例えば、親の意向で、本当は行きたくなかったのだけれども来てしまった。或いは、本当は文系に行きたかったのだけれども、就職に有利だから高専に来たとか、いろいろな要素があります。学校としてもミスマッチが起きないように事前の説明を強化しないといけないと考えております。もし、そうしたことが起こった場合も、その学生のためになるように、いろいろな面で進路指導する。或いは、3年で中退し、大学へ進学するという方向も考えられますので、そういった面での指導も行っております。確かに、こういった点は悩みの点ではございます。

(塩田 北山委員代理)

全ての高専が持つ課題なのですね。

(校長)

はい。本校だけではなく、全国の高専共通のことでございます。

(学生主事)

本校では、多くはないのですが、進路変更した学生が、また、再入学してくるということもございます。

(柳澤議長)

私の方から、2点だけ質問させていただきたいのですが。大学もそうなのですが、高専でも認証評価というものを受けますよね。その中で、今日、アドミッションポリシーの例が示されていましたが、一方、卒業する時のディプロマポリシー、卒業時の人材育成像というものが求められている、或いは、これから求められると思うのですが、学校全体、或いは、学科ごとに、既に定められているのかどうか、お尋ねしたいのが一点と、概要にもありましたけれども、海外インターンシップや短期海外研修旅行といった国際化に合わせたような取組があるのですが、ちょっと人数を見ると、まだまだ少ないように思えるのですが、その国際化という方面では、将来的にどういう風に考えておられるのかという2点をお尋ねしたいのですが。

(校長)

最初のご質問については、学校としても学科としても、まだそこまで行われておりません。今後の検討課題でございます。

2点目の国際化のご質問ですけれども、なかなか、経費等の問題もございまして、拡大

といっても、あくまで自己負担というのが原則でございます。機構本部実施分については、そちらでかなりの部分を負担いただけるということで、少々違った面はございますけれども。本校で実施のオーストラリアの場合は、ゴールドコーストから南へ車で1時間半くらいのところのサザンクロス大学が研修場所で、そこは、だいたい20万円程度かかってしまうので、その負担が個人ではなかなか大変だということもございまして、もう少し安価に実施できる、例えば、中国や、或いは、英語圏であるマレーシアだと、もう少し安くなるかなと思っております、できるだけ選択肢を拡大して、いろいろな選択ができる、事情に応じて、参加できる機会を増やしていきたい。そういった努力は今後していきたいと思っております。

(柳澤議長)

どうもありがとうございました。

⑤学生相談室から

(平田委員)

結構、校内を歩いていて、あいさつをしてくれる学生たちも多いのですが、あいさつ運動的な、教職員も含めて、みんなが元気にあいさつできる環境になればと思います。

(学生相談室長)

学校の校門の前であいさつ運動というのは、学生会の運動で行っております。ただ、やはり、学生たちに聞くと、あいさつしてもあいさつしてくれない先生がいるという不平もあつたりしますから、そういうことも、特に学校側から積極的に声かけできるようにしたいと思っております。

(平田委員)

ありがとうございました。

(柳澤議長)

他には、いかがでしょうか。

(加藤 青野委員代理)

心の病の問題というものは、学生だけではなくて社会人として組織に入っても非常に大きな問題なんですけれども、心の病の問題について24%の学生が、学外カウンセラー(H20)相談件数にあがっていますけれども、具体的に心の病と分類された学生たちのその後の対応をどのような方法でカウンセリング等できているのか、参考までにお聞かせいただければお願いします。

(学生相談室長)

まず、こちらができることと申しますが、具体的に、学級担任等を含めまして、学内で対応できるのかということ、まず、検討いたします。どうしても、心の病の原因というのが、学校の中にない場合ですと、学外カウンセラーの空いている専門の臨床心理士や医師といった専門の先生にお願いして面談いただく。その中で、物理的なことは学校が対応できるのですけれども、どうしても投薬が必要なうつ病とかになっていきますと、医師にかかる必要がございます。そういう時は、外部の専門機関にお願いしているという現状でございます。どうしても長い期間対応する必要がございます。その中で、改善される場合、そうでない場合など、ケースバイケースとなっておりますので、こちらは、適切な所をお願いするという治療が必要不可欠だと思っております。

高専では、特に臨床心理士という専門のスタッフはおりませんので、どうしても外部機関に頼る必要がございます。ですから、学内の対応としましては、保護者との連携、そして、外部機関へつなぐまでの対応を一生懸命させていただいて、医師でないといふような部分に関しては、そちらをお願いするしかないと考えております。

(加藤 青野委員代理)

特に、心の病、思春期の対応というのは、非常に大事だという話を聞いておりますので、特に、うつ病や投薬等について、専門医の指導が必要な学生が出るかも知れませんが、早期発見、早期治療が心の病には有効だといわれていますので、できるだけ早い段階で対応して、大きな治療を要する学生が出ないように対応していただければと思いますのでよろしく願いいたします。

(学生相談室長)

はい。分かりました。

(柳澤議長)

他には、いかがでしょうか。

(堺委員)

心の病と関連して、不登校になる学生はいますか。また、そのような場合は、どのように対応されていますか。

(学生相談室長)

不登校についても、学校側で対応はとりますけれども、復帰する場合と、辞めてしまう場合、それもいろいろです。学級担任が保護者と連携をとり、その辺りの原因というものを調査しますけれども、もし、原因等あった場合には、中学校時代等も含め担任を中心に調査しております。そういった原因が取り除ける場合は、本人が少しずつ改善していくこともございます。また、原因がなかなか分からない場合、少し出てきたり、また、来なくなったりということを繰り返して、医師にもかかりはしますけれども、それでも結局は辞めていくというケースもございます。こればかりは、こうしたらこうといったことが言えません。

なかなか、こういった学生たちというのはカウンセルにかかりにくいというのがありまして、親にも話したくないということで、後から聞くと、その時期は絶対に誰にも知られなかったんだという気持ちだったということもございますので、学校側としても、関与しなかったことで悪い方に行かないために、できるだけいろいろな所に相談し、連携をとりながら対応をしていくつもりでございます。そういう意味で、新居浜高専は、大学のように広く、人数が多い世帯ではありませんので、臨機応変な対応をとっていけると思っております。

(柳澤議長)

どうもありがとうございました。

⑥前回運営諮問会議のフォローアップ報告

- ・地域と連携した教育活動の取組

(佐々木委員)

新居浜の小中学校の出前授業は非常に好評ですので、また、いろいろと催していただくことをお願いします。また、いろいろな教育委員会で行っている理科教育や審査員などに出てくださいまして、ここでお礼を申し上げます。また、引き続き、よろしくお願い申し上げます。



⑦その他の意見交換

(柳澤議長)

私の方から1点。先ほど認証評価のことについて言いましたけれども、高専においても、大学においても対応に苦慮しているところなのですが、高専の評価や認証評価に対応する時にいろいろな統計が必要ですよ。例えば、学生が卒業する時にアンケートをとったり、或いは、卒業生に対してアンケートをとって、ここでの教育の満足度を定量化するとか、そういった事というのは、すでにされているのかも知れませんが、まず、それを確認したうえで、そういったものを大学としても、一生懸命に集めたりしているのですが、これがなかなか骨の折れることなのです。多分、高専もしていないとなれば、そういうことをいずれ、かなり重点的にやらなければいけない時が来るので、その辺りをお話したいだけだと思います。

(教務主事補)

確におっしゃるとおり、認証評価を受けた時は、非常に膨大なアンケート等を集めなければならなかったもので、その後も続けなければならないと思っております。卒業した卒業生に対するアンケートにつきましては、頻繁にできるものではありませんので、5年おきぐらいに実施し、重ならないようにとアンケートを工夫してとったこともありまして、そういったデータはあるのですけれども、最近、比較的新しい卒業生アンケートもとってしまいましたので、またアンケートをお願いするとなると、違った観点でアンケートするということになってしまいますので、どういった観点でとるかということを決めたうえで、また新しいことをお聞きするとか、ある程度期間をおいてとらないと、「また来たか。」ということになっても申し訳ないので、その辺を含めて検討しなければならないと思っております。今のところ、卒業生にアンケートをとる予定というのは、はっきりとは決まっております。

卒業時アンケートにつきましては、実は、何年か前からやっておりましたが、去年、一昨年と抜けてしまい、途絶えているのですけれども、そういうことについてのアンケートの試みはやってきております。また、抜けないように、毎年続けていけるように、体制を整えていかねばならないと思っております。

(柳澤議長)

先ほど、卒業生をどういう人材として社会に送り出すかというディプロマポリシーが、まだはっきりした形ではないということでしたけれども、そういったものを必ず定めなければならない、それに合うそのエビデンスとしてのアンケートというものが必要になると思うのですけれども、そういうある種の体系的なディプロマポリシーを作って、それに対応するようなアンケート項目を考えて実施するということが、必然になると思うので、そこは是非、すでに検討されている部分はあると思うのですけれども、もう少し詰めら

れたらいいんではないかという風に思います。

(教務主事補)

先ほどのディプロマポリシーの話なのですが、明確にこれがディプロマポリシーというものではないのですが、学科によっては、こういうものを身につけて卒業すると決めているところがございます。そういうことについてアンケートで確認するというのを前の卒業生アンケートではとっておりますので、そういうことをきちんとした形で続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

(柳澤議長)

実際は、ディプロマポリシーがないところはないと思うのですが、文章化しているかという問題で、それはそれで実質的には難しい問題ではないと思うのですが、文章化する必要性はありますね。

それでは時間になりましたので、運営諮問会議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

5 委員の追加意見・要望等

1. 学校説明

5年一貫教育の強みをもっと強調すべきだと思います。勉学を志して大学に進むのもすばらしい事であるが、“進学校”のようになるのは危険。学歴を重くみる考え方は、未だ、世間でまかり通っているが、そのための便利な踏み台のようにとられてはいけない。

2. 学生相談室から

熱心に取り組んでおられるので感心しました。利用回数が多いのも驚きでした。相談しなければならなくなる前に、心や頭、コミュニケーションなどに関するミニ講演会を学生、教職員混合で学内や授業以外で、ドンドン開催してはどうでしょうか。楽しいもの。役に立つもの。例えば、「きっと役立つ！コミュニケーションスキル塾」「きっと役立つ！整理整頓術」

3. その他

あいさつ運動を皮切りに、明るい学校を目指して欲しい。

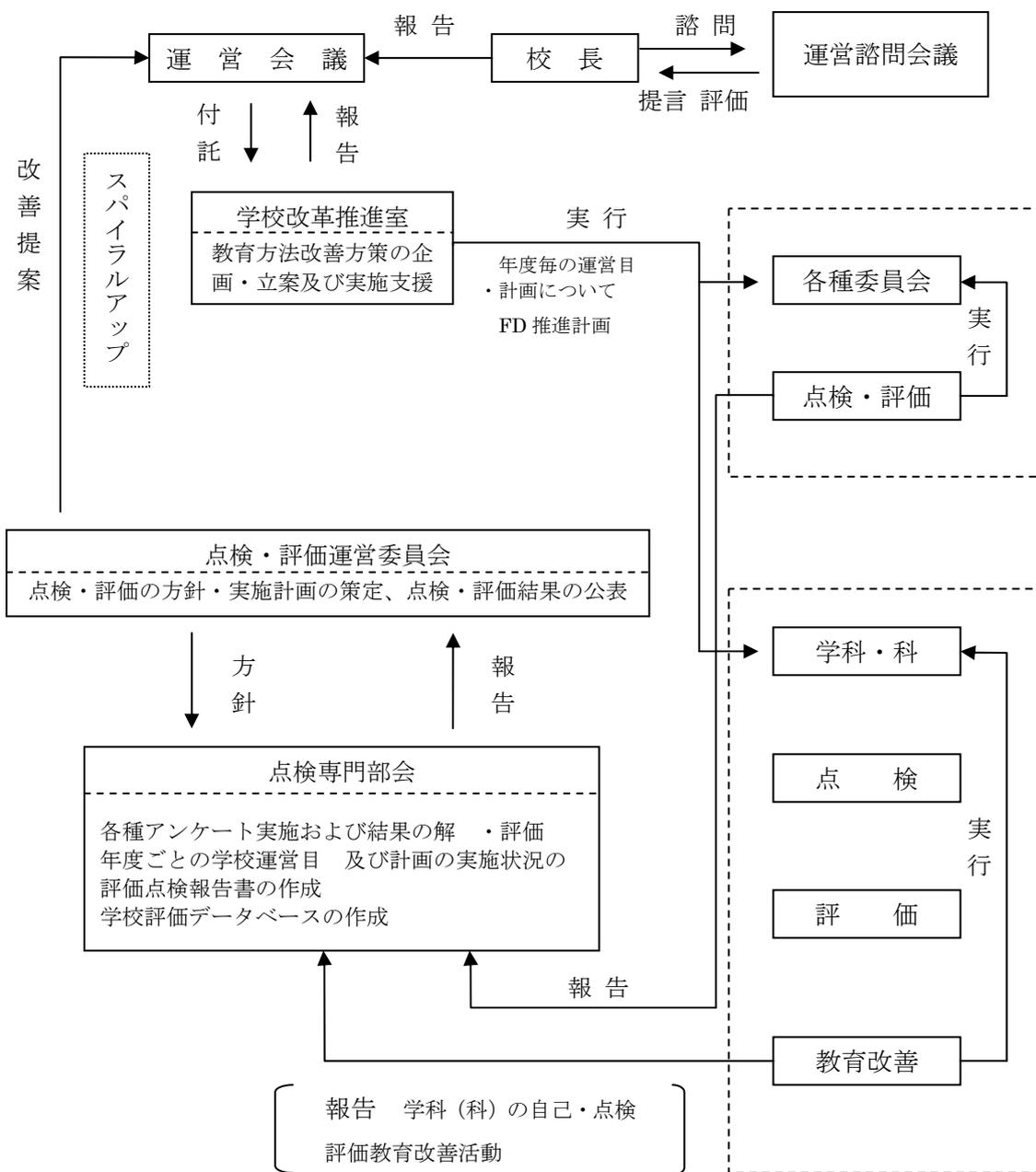
学校で自己評価されているのであれば、その結果等も示していただけると意見が言いやすいと思う。

6 その他

第5回 運営諮問会議 配付資料一覧

No.	資 料 名
1	学校案内2009
2	はばたけ未来へ2010
3	平成22年度 学生募集要項
4	平成21年度 本科履修要覧
5	平成21年度 専攻科履修要覧
6	専攻科2009
7	高専だより
8	新居浜高専メールマガジン
9	新聞記事から見た新居浜高専
10	新居浜高専における地域との連携 平成17年度～
11	地域連携プロジェクト型ものづくり活動 ～工都新居浜の活性化プラン～
12	新居浜高専 技術シーズ集 4
13	高技センター報 第8号
14	平成20年度 ものづくり教育支援センター活動報告
15	第4回 運営諮問会議報告書
16	独立行政法人国立高等専門学校機構 概要
17	独立行政法人国立高等専門学校機構 高専KOSEN
18	独立行政法人国立高等専門学校機構 高専専攻科
19	国立高専だより vol. 8

教育改善等実施の組織体制図



新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成 17 年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議(以下「会議」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が選考した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長を置き、それぞれ委員が互選する。

- 2 会長は会議を招集し、その議長となる。
- 3 会長に事故あるときは、副会長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 17 年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程(平成 13 年8月 29 日規程第8号)は、廃止する。

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議報告書

平成22年4月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL (0897) 37-7700

FAX (0897) 37-7842

URL <http://www.niihama-nct.ac.jp/>